

がんばる日本の繊維産地<1>(群馬県)



ニッポン・サイコー!

伝統技術を活かした和装の新提案【桐生織物協同組合】



先だって行われた地元での新作発表会

日本一の養蚕県である群馬県の東南部に位置する桐生市は、古くから絹織物の一大産地として栄えた都市である。

現在の和装業界を取り巻く環境は、生活様式の変貌や大手呉服販売チェーンの倒産等の影響により、厳しい状況が続いているが、桐生産地には、絹織物に関する伝統的かつ高度な技術が集積し、着実に継承されているという強みがある。

この桐生産地に受け継がれてきた伝統的な技術・技法を活用して、消費者ニーズを取り入れた新製品開発とトータルコーディネートを提案し、ブランド展開を進めているのが「きりはた」である。

「きりはた」は、平成16年6月に伝統的工芸品『桐生織』を製造する着物・帯・和装小物のメーカー4社(現在は5社)が、各社の強みを持ち寄り、産地ブランドの確立を目指して活動をスタートし、毎年テーマを新たにした新製品開発を行っている。

平成17年からは新作発表会を、東京銀座の「ギンザギャラリーハウス」で実施し、高品質で求めやすい価格の製品を充実させるとともに、会場内の展示方法や顧客とのコミュニケーション方法を研究するなど、様々な角度から新たな挑戦に取り組んでいる。

こうした取組みにより、和装ブランド「きりはた」は、これまで着物に縁のなかった洋服世代の消費者にも、新鮮さを感じてもらえるファッションとして好評を得ており、また、大手百貨店等とのタイアップが始まるなど、着実に実績を積み重ねている。

本年度は、自然現象をテーマに伝統的な日本の美である「天象文様」をファッションアドバイザーの助言を受けて現代風にアレンジし、12月3日(水)～7日(日)までの5日間、東京・ギンザギャラリーハウスにて、新作発表会を開催する。

今後も消費者ニーズの的確な把握に努めながら、

希少価値のある高品質な製品開発を進め、現代における和風の開発、伝統的工芸品を取り入れたライフスタイルの提案など、時代の流れを敏感にとらえながら、和装産業の新たな希望ある発展に向けて創造的な歩みを重ねていきたいと考えている。

○きりはた

(代表:合資会社後藤 代表社員 後藤隆造)

住 所:群馬県桐生市東1-11-35

電 話:0277-45-2406

○グループ参加企業(5社)

合資会社後藤、泉織物有限会社、株式会社江雅織物工場、有限会社高光織物工場、有限会社井清織物



天象文様をテーマにした新製品の着物・帯・和装小物

編集部より

地域産業の停滞、雇用・就業機会の減少、高齢化社会への移行により「都市と地方の格差」が拡大してきており、そういう現状問題を解決するための対応策が講じられている。「農商工連携」や「企業立地の促進」、「地域資源を活用した新商品、新事業の開発」など地域の再生・活性化をかけた各種プロジェクトが各地で試みられている。かつて日本の主産業の1つでもあった「繊維業界」の各産地でも復興・躍進に向けた様々なプロジェクトが取り組まれている。繊維業界の方のみならず、地域の活性化に努力されている方々の参考としてご活用いただきたく、その活躍ぶりを連載企画「がんばる日本の繊維産地」として紹介する。また、本企画についてのご意見・ご感想をお待ちしております。

(次回は12月5日付に掲載予定です。)